

たちばな天文台 台長 裳部 樹生 先生 の おもしろ星百科

～暖かい陽気に誘われて・春の夜空に目を向けてみよう～

★夜空は冬から春、そして夏に向けての準備へと☆

4月は上旬の桜から中旬の藤、そして下旬にはアヤマに新緑が加わり、季節の移り変わる速さには驚かされま
すね。そんな夜空でも、先月まで頑張っていたオリオン
座やおうし座などの冬の星座が下旬になると早々に地平
線へと落ちてゆき、追いかけるように、かに座やしし座、
おとめ座などの春の星たちが空高くしっとりと落ち着い
た光を地上へと投げかけています。さらに東の空に目を
移すと、ヘルクレス座やこと座と言った夏の星座も姿を
現し、夏に向けての準備に取り掛かっているのを見ることが
できます。心地よい柔らかな風の中で、さあ見上げてみよう・春真っ盛りの星空を……。



☆宵の空で、惑星と月の出合いを楽しむ☆

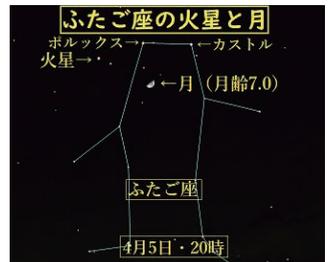


先ほども述べたように、冬の星たちが西の空へと移り、「そろそろお休みの時がやってきましたかな。」と語り合っているようですが、その中に二つの惑星があることは2月号のこの項でも述べていますので記憶されている方もいらっしゃるでしょう。

その1つがおうし座の中を移動している木星になります。夕方の空で燦然と輝いていた金星がいなくなった今、一番星として非常に明るく輝いていますので見上げただけですぐにそれだとわかるでしょう。4月に入ってすぐ、そこに新月を過ぎたばかりの月が形を変えながら通り過ぎてゆくのを目にすることができるのです。このころの宮崎市の日没が午後6時半過ぎになりますのでその1時間後ぐらいがベストになります。

まず1日、三日月のすぐ上に星の集団「すばる」があります。夕空でのすばると月の出合いは今シーズンこれが最後となりますので、暗くなる時間帯を見計らって細い月のすぐ上に目を凝らしてみてください。きれいに晴れていたら宮崎市内でも見えるはずですよ。翌2日には、すばるを通り過ぎて少し太くなった月(四日月)が、木星へと近づいてゆきます。この日の月あかりは夜空にそこまで影響することはありませんので、空の暗いところでは月の下にあるすばるも肉眼で確認することができるでしょう。

木星と月の最接近は3日の朝になっていてその様子を見ることは出来ませんが、この日の夕方少し離れてしまった



木星と月の並びを楽しんでもらいたいものです。

木星を離れた月はその2日後の5日に半月（上弦）となって、もう1つの惑星・火星へと寄り添っていきます。

火星は今年1月の地球最接近から3カ月が過ぎ、光度はずいぶん落ちてしまいましたが、それでも0.5等の輝きでふたご座の中を移動しています。火星はふたご座の明るい二つの星・カストル（1.6等）、ポルクス（1.2等）と並んでいるので、明るさと色の違いを楽しむのも良いでしょう。そこにちょっと失礼と上弦となった月が入り込んでくるのです。結構明るい月にはなりますが、火星もカストル・ポルクスも月の明るさに負けてなるものかと輝いていますので、その対比を見るのも面白いですよ。翌6日になると、月は火星の反対側（東側）へと移動しています。その動きにも注目してみましょう。

★下旬は夜明け前の空が面白い☆



内合（ないごう・地球と太陽の間を通過すること）を過ぎて今月初めから明けの明星となった金星と、先月13日の合（ごう・太陽の向こう側に回り込むこと）を過ぎて夜明け前の東の空に姿を現してきた土星、さらに22日に西方最大離角（せいほうさい）だいたいかく・地球から見て太陽の西側に最も離れること）となった水星が夜明け前の東の空に勢ぞろいです。

土星と水星が夜明けの空で見え始めるのは中旬を過ぎてからになるのですが、それでもまだ高度がかなり低いのであまり条件が良いとは言えません。下旬になると水星の高度もそれなりに増してきて見やすくなってきます。このころになると土星が金星に接近してきていて、明け方の空で3つの惑星を見つけるのはそこまで難しくはないでしょう。

そこに25日から26日にかけて新月を28日に控えた細い月が近づき、通り過ぎてゆくのを目にすることができるのです。このころの宮崎市の日の出は5時35分なので、4時半ごろからがお勧めです。ただかなり早起きをしないとこの絶景を楽しむことができないのはつらいですが、一見の価値はありますよ。

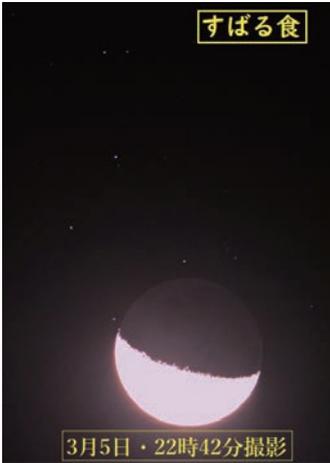
★22日夜半にはこと座流星群にも目を向けてみよう☆

しばらく流星群の話題からは離れていましたが、ようやく春のシーズンがやってきました。そのスタートがこの「こと座流星群」になります。こと座と言えば夏を代表する星座の1つで、1等星ベガ（七夕の織女星）があることでよく知られていますね。この流星群の放射点が東の空に昇ってくるのは21時ごろになっていますので、この時刻ごろから待ち構えておきましょう。



育児情報

ピークは22日23時となっていて、放射点もそれなりに高くなっていますが、1時間当たりの出現数が10個前後と少ないので、流星群と言ってもビュンビュン流れるのではなく、1つ流れてしばらく待ってまた1つと、間が持たないかもしれませんね。ただ月の明かりのない好条件ですし、時折火球と呼ばれるビックリするような明るい流れ星に出会うことがありますので目が離せません。当日は水曜日と平日になっていて、夜遅くまではきついかもしれませんが、春の一夜を流れ星で楽しむのも良いものですよ。



写真は
菟部先生の
撮影です

